

Q・002

「きちんと聞こえているようですが、サポートは必要ですか？」



A・002

「必要です。」

聞こえの状態により、必要なサポートは異なりますが、サポートは必要です。

①聞こえないときがある。

聴覚障害がある場合、「聞こえるとき」と「聞こえないとき」があります。そのため、きちんと聞こえていると思っていても、聞き落とししたり、聞き間違えたりすることがあります。

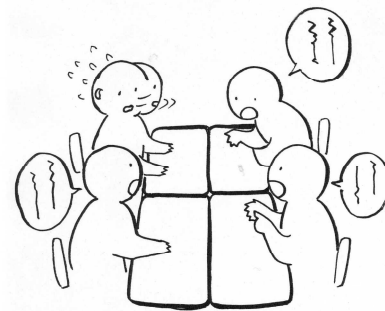
聞こえない状況になりやすい例をいくつか挙げます。

- ・早口で話されたとき
- ・小さい声で話されたとき
- ・遠くから話されたとき
- ・普段使わない言葉が出てきたとき

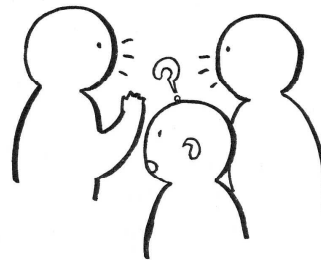
・雑音があるとき



・複数で話をするとき



・話す人の口が見えないとき



・スピーカーからの音声を聞くとき



注意してほしいのは、本人が「聞こえる」「分かる」と言っても、きちんと聞こえているとは限らないことです。

聴覚に障害がある人は、障害のない人の聞こえ方は分かりません。自分が聞こえているように、みんなも聞こえていると思うことがあります。また、聞こえない状況に慣れて、「こういうものだ」と思っていることがあります。

このようなことにより、きちんと聞こえていなくても、「聞こえている」「分かる」と答えるのです。

大学に入学し、きちんとした情報保障(話した内容が文字で提示されるなど)を受けることで、初めて「自分には情報がきちんと伝わっていなかったんだ」と気付く例もあります。

②心配されること

・言葉の力と学力

話している言葉が聞き取れないことにより、言葉の情報が不足します。そのため言葉の力が身に付きにくくなります。また、それにより、学力が向上しにくくなります。

・友達との関係

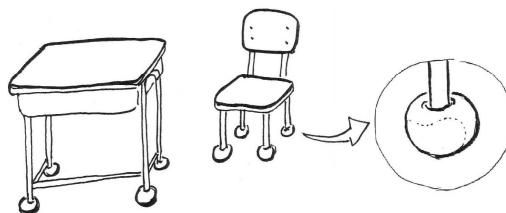
さらに心配されるのは、友達との関係です。言葉が聞き取れないときがあるため、コミュニケーションがうまくいかず、トラブルが生じる場合があります。特に大勢で楽しく話をする場合、みんなが盛り上がっているにもかかわらず、話の内容が分からないということが生じます。



③サポートの例

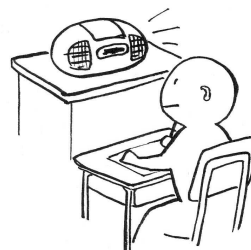
聞こえない状況をいくら積み重ねても、聞こえるようにはなりません。一人一人の実態に合わせて、適切なサポートが必要になります。例をいくつか挙げます。

- ・静かな環境を作る。



- ・話をするときは児童生徒の方を向く。
- ・すこし大きめの声で、少しゆっくり話す。
- ・児童生徒の発言を教員が復唱する。
- ・新出語句は板書する。
- ・視覚教材などで見てわかる工夫をする。

- ・リスニングの際は、スピーカーの近くに席を設ける。または、肉声を聞き取る。



- 周りの児童生徒が聴覚障害について正しく学習する機会を設ける。

障害のある児童生徒が、障害のない児童生徒と一緒に学習したり生活したりするためには、障害のある部分をしっかりサポートする必要があります。その上で、年齢相当の対応をすることが重要です。